

決算説明資料

2020年度 第3四半期決算

岩崎通信機株式会社

**あらゆる人やモノを繋ぐコミュニケーションで、
生きがい溢れる社会創りに貢献する**

We connect the world,
striving towards building
a society for tomorrow.

◇2020年度 第3四半期実績

1. 連結業績
2. セグメント別業績
3. 連結貸借対照表

◇2020年度 通期業績予想

4. 業績予想
5. 配当予想

◇トピックス

6. 当社の新たな取り組みのご紹介

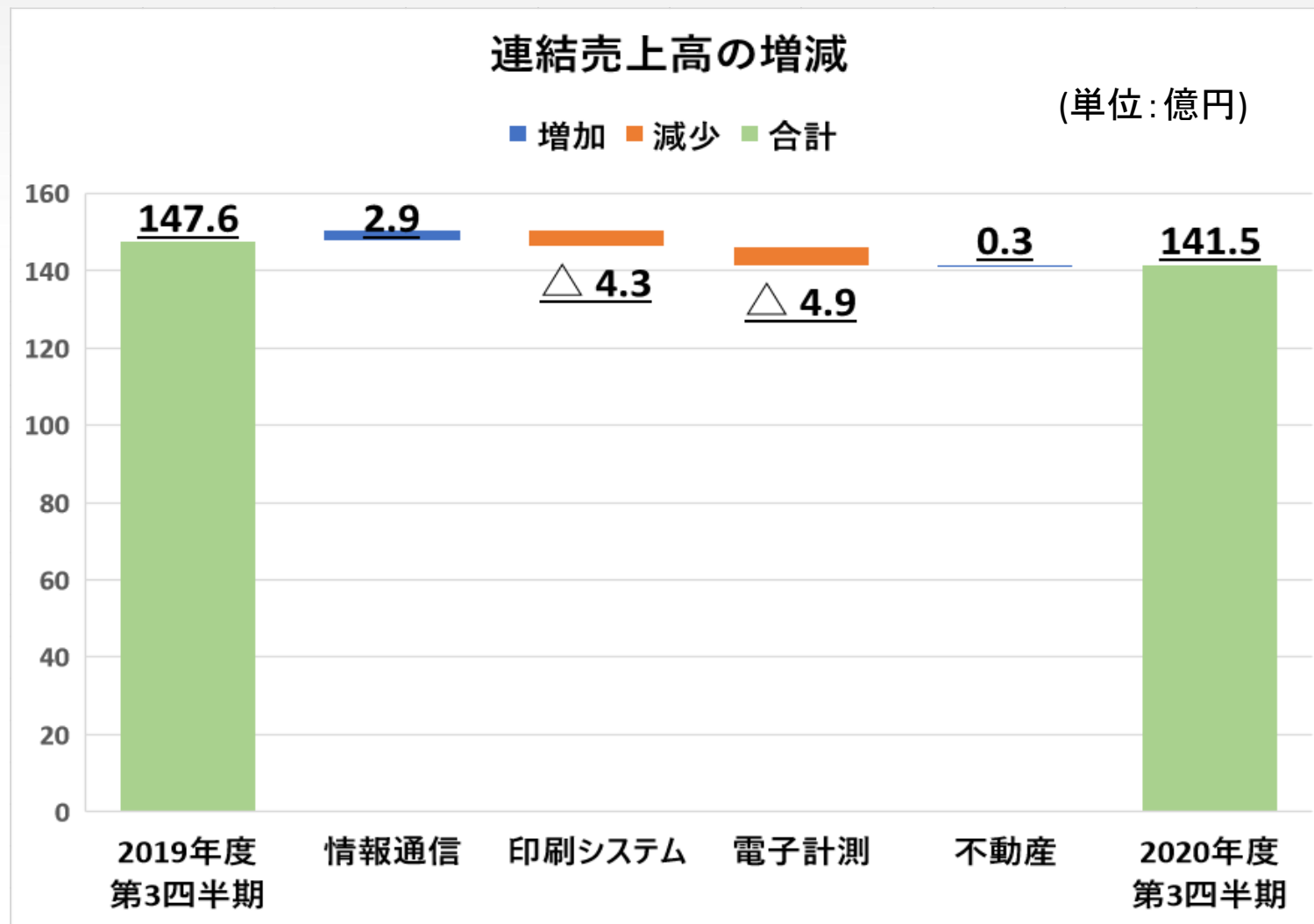
2020年度 第3四半期実績

1-1. 連結業績

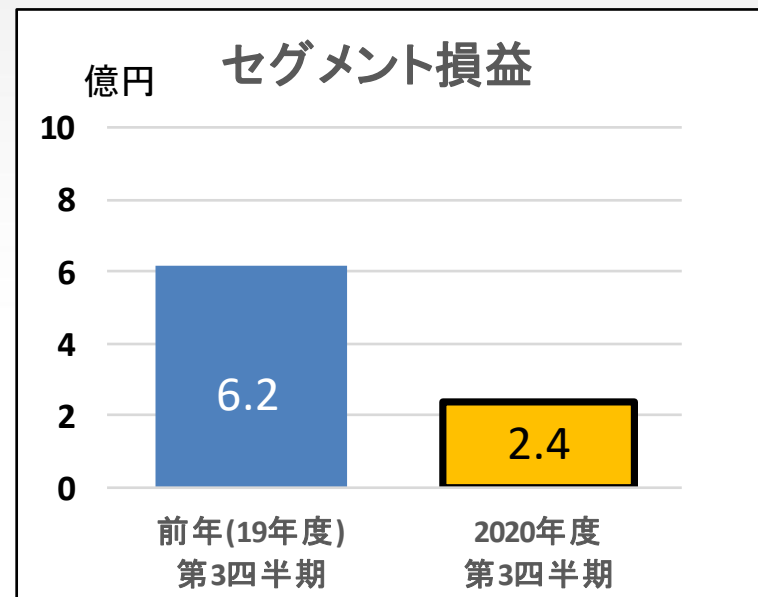
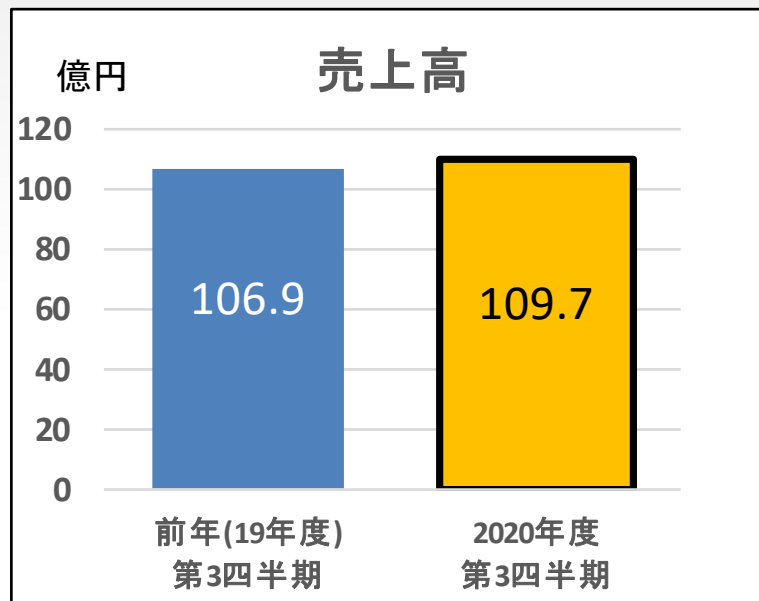
(単位：億円)

	前年（19年度） 第3四半期	2020年度 第3四半期	増減
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	147.6	141.5	△6.1
情報通信	106.9	109.7	2.8
印刷システム	16.7	12.3	△4.3
電子計測	21.3	16.3	△4.9
不動産	2.7	3.1	0.3
営業利益	△6.0	△10.7	△4.7
情報通信	6.2	2.4	△3.9
印刷システム	0.1	△1.6	△1.7
電子計測	△1.4	△1.6	△0.2
不動産	0.7	1.2	0.5
調整額	△11.6	△11.2	0.4
営業外損益	0.6	0.8	0.3
経常利益	△5.4	△9.9	△4.5
特別損益	△0.1	1.5	1.7
法人税等	0.1	0.2	0.0
当期利益	△5.7	△8.6	△2.9

1-2. 連結業績



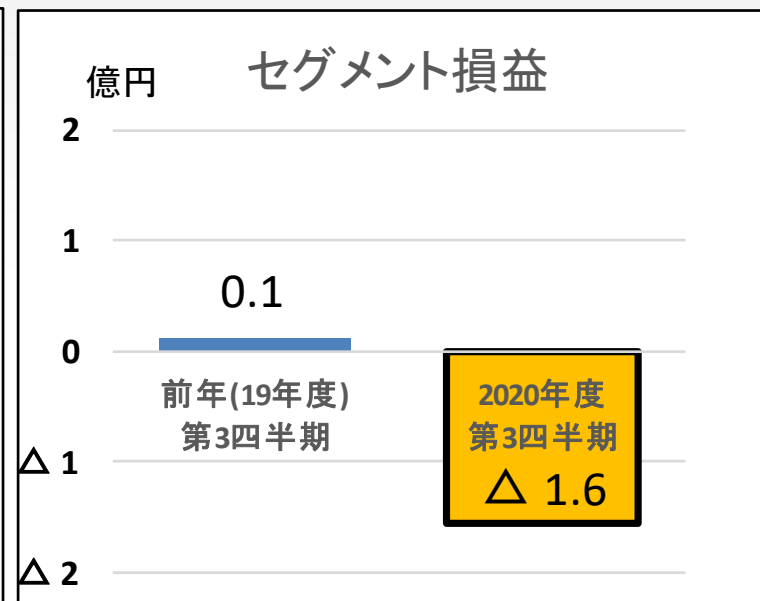
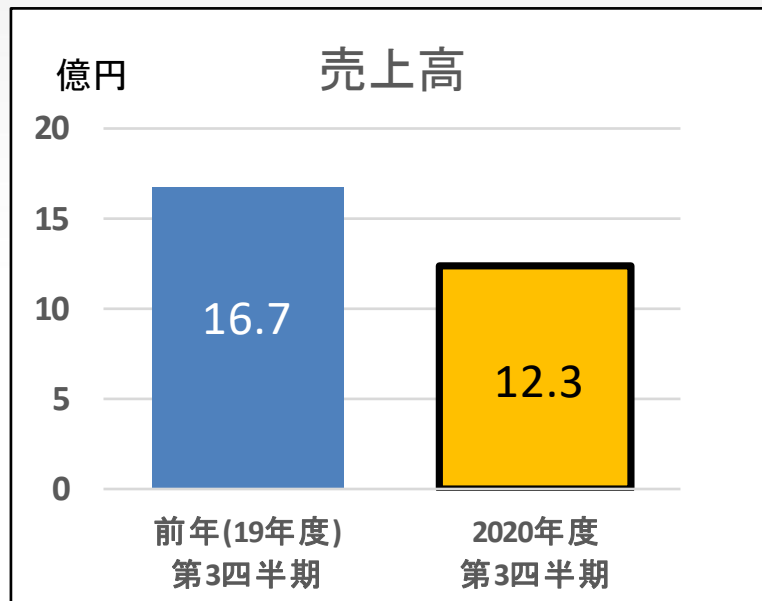
2-1. セグメント別業績（情報通信）



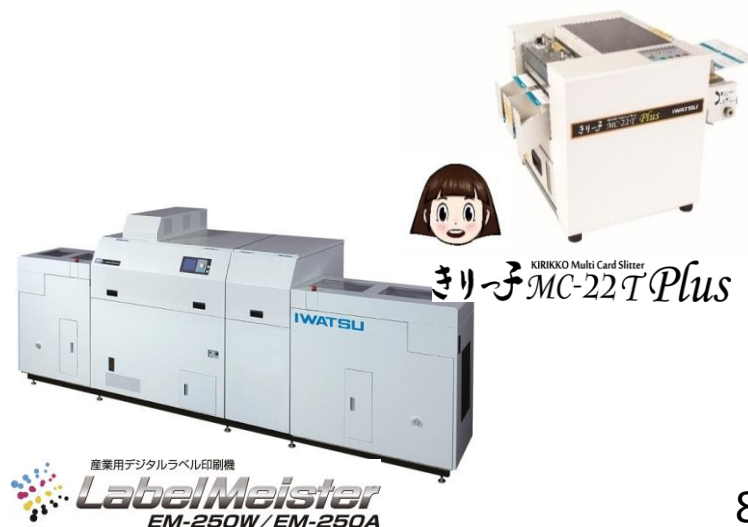
- 売上高は、受注活動停滞の影響に加え、前年同期にあったコンタクトセンターソリューションの大型案件の剥落による売上高減少がありました。一方、受託生産売上が大幅に増加したことにより、前期比2.8億円の増収。
- セグメント利益は、売上高構成の変動による原価率の悪化と主力製品の後継機の開発による費用の増加により、前期比△3.9億円。



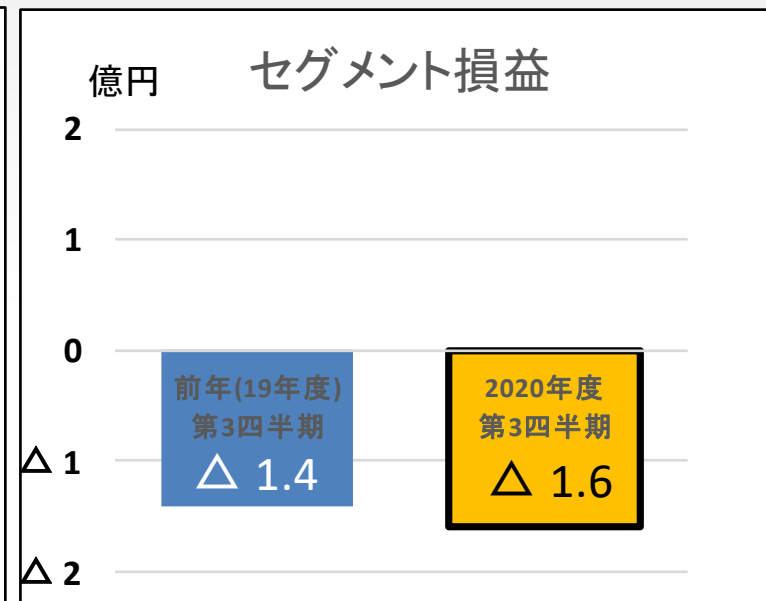
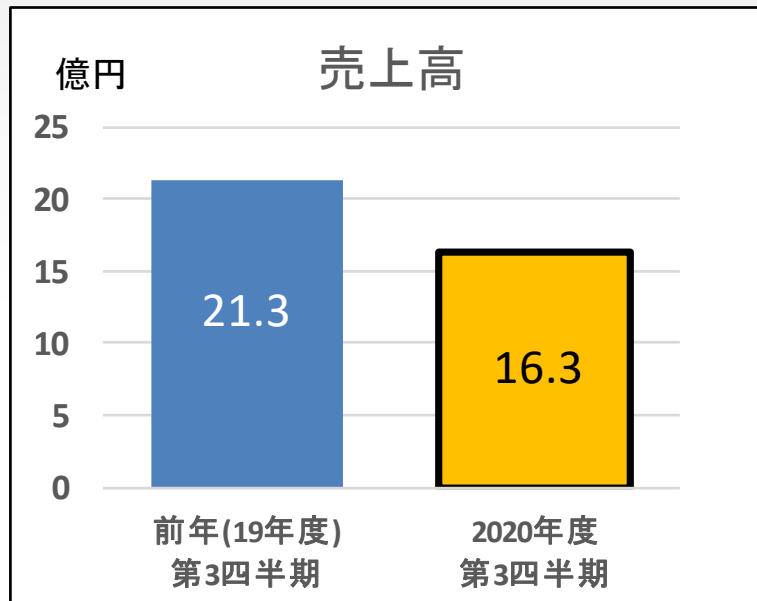
2-2. セグメント別業績（印刷システム）



- 売上高は、イベント等の中止、延期等、印刷市場が大きな影響を受けたこと、また、受注活動停滞の影響もあり、主に消耗品の売上高が減少し、前期比△4.3億円の減収。
- セグメント利益は、売上高の減少に伴い、前期比△1.7億円。



2-3. セグメント別業績（電子計測）



- 売上高は、企業の設備投資意欲が低下している影響に加え、国内外の受注活動停滞の影響や、前年同期には航空宇宙関連の大型案件があったことによる反動もあり、前期比△4.9億円の減収。
- セグメント利益は、売上高の減少に伴い、前期比△0.2億円。

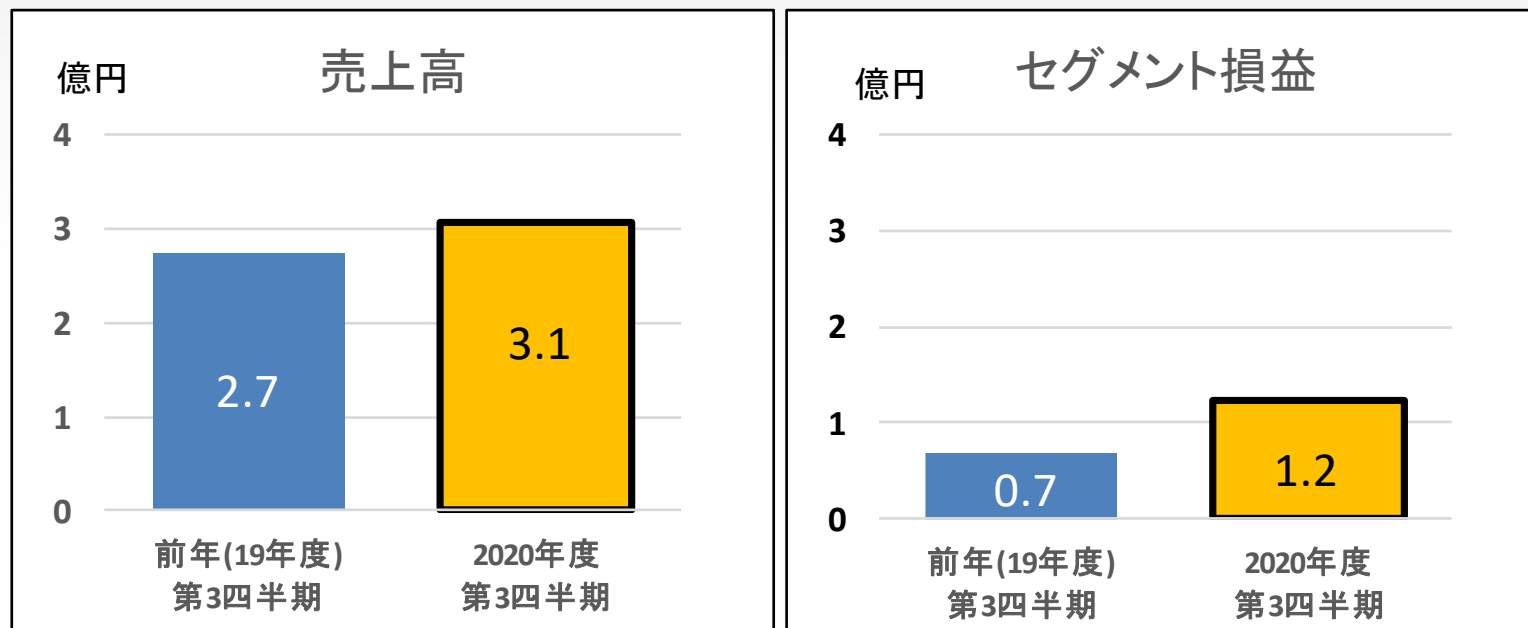


デジタル・オシロスコープ
DS-8000シリーズ



半導体カーブトレーサ
CS-8000シリーズ

2-4. セグメント別業績（不動産）



- 売上高は、主に当社本社敷地内の保有資産の有効活用により、前期比+0.3億円の増収。
- セグメント利益は、売上高の増加に伴い、前期比+0.5億円。

3. 連結貸借対照表

2020年3月末
単位:億円

流動資産 187.7	流動負債 37.3	純資産 194.7
	固定負債 57.4	
固定資産 101.8		
資産合計 289.4	負債・純資産合計 289.4	

2020年12月末
単位:億円

流動資産 173.6	流動負債 36.2	純資産 186.6
	固定負債 57.8	
固定資産 107.0		
資産合計 280.7	負債・純資産合計 280.7	

・主な増減要因

【流動資産】 △14.0億円

現金及び預金△5.5、受取手形及び売掛金△22.1、商品及び製品+2.9、仕掛品+3.1、原材料及び貯蔵品+7.3 等

【固定資産】 +5.2億円

無形固定資産+5.0、投資その他の資産+1.3、有形固定資産△1.1 等

【流動負債】 △1.1億円

賞与引当金△3.0、その他△1.8、支払手形及び買掛金+3.5 等

【固定負債】 +0.4億円

退職給付に係る負債+0.3 他

【純資産】 △8.0億円

利益剰余金△8.5 他

2020年度 通期業績予想

4. 業績予想

2020年度通期の連結業績予想については以下のとおり現在精査中であり、2月末までに改めて公表する予定です。

【現在の状況について】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初見込んでいた案件の受注時期が遅れる等の影響が出ています。また昨年末からの感染拡大に伴う緊急事態宣言の再発令により、先行きの不透明感が高まっています。
- ・このような状況から、業績予想については今後の動向を慎重に見極めたうえで、今後発生しうる追加的な事象を含めて現在精査中です。

【ご参考】 2020年11月6日発表の業績予想

(単位：億円)

	前年(19年度)	2020年度	増減
	通期 実績 (連結)	通期 予想 (連結)	
売上高	222.9	219.0	△3.9
営業利益	1.5	△2.0	△3.5
経常利益	2.2	△1.0	△3.2
当期利益	0.6	0.0	△0.6

5. 配当予想

(単位：円)

	前年 (2019年度)	2020年度	増減
	実績	予想	
中間配当	0.0	0.0	-
期末配当	0.0	未定	-
合計	0.0	-	-

2020年度 期末配当予想額は、現時点では未定とさせていただきます。

(通期業績予想とあわせて2月末までに公表予定です。)

トピックス



6-1. 当社の新たな取り組みのご紹介

■ 2020年11月30日付

広帯域1GHz・高分解能12ビット・最大8チャンネル デジタル・オシロスコープDS-8000シリーズを発売

近年、カーエレクトロニクスや情報家電等の分野では、次世代パワーデバイスを活用した機器の小型化・低損失化が進められています。DS-8000はそうした機器の評価において求められる「広帯域」「高分解能」「高電圧」「大電流」等への対応を実現しました。

【特長】

- ・ 15.6インチ フルHDの大画面ディスプレイで高い視認性。
- ・ タッチスクリーン等、直感的に使えるユーザインターフェース。
- ・ 電源起動後、約30秒（他社比最速4倍）で立ち上がる高速起動。
- ・ 高分解能&低ノイズ。自動車、コンポーネント、半導体の設計・生産・品質保証部門に最適。
- ・ 最高周波数帯域1GHz、最大8chで幅広いアプリケーションに対応。



6-2. 当社の新たな取り組みのご紹介

■ 2021年1月12日付

最大測定電圧5kV・最大測定電流2,000A 半導体カーブトレーサCS-8000シリーズを発売



当社は次世代パワー半導体の特性測定や試験に求められる機能を搭載した半導体カーブトレーサCS-8000シリーズを発売しました。

電気自動車(EV・HEV)向けデバイス等、近年投資や技術開発が活発化しつつある省エネ技術の分野において、SiC(炭化ケイ素)・GaN(窒化ガリウム)といった次世代パワー半導体を使用する機器の設計には、その特性を正確に測定することが不可欠となっています。